

# ロシアのウクライナ“侵略”について：米情報部元職員からメルケル独首相への覚書

By: Global Research News

Global Research, September 02, 2014

<http://www.globalresearch.ca/russias-invasion-of-ukraine-memorandum-to-angela-merkel-by-veterans-of-u-s-intelligence/5398842>

ワシントン政官界を覆っている反ロシア・ヒステリーと、新しい冷戦の幽霊に不安を覚えた米情報部元職員有志が、ロシアの“侵略”に関するウクライナと米のメディアの主張を疑問とする、この8月30日メモを、ドイツのアンゲラ・メルケル首相に送るという異例の行動を取った。

MEMORANDUM FOR: Angela Merkel, Chancellor of Germany  
FROM: Veteran Intelligence Professionals for Sanity (VIPS)  
SUBJECT: Ukraine and NATO

私たち下に署名する者たちは、米国情報部に長く勤めた経験をもつ者たちです。私たちは、9月4-5日のNATOサミットに先立って、あなたに私たちの見解を知っていただく機会を得られるように、この異例の公開書簡を送ることにしました。

例えば、知っておいていただきたいのは、ロシアのウクライナ“侵略”という非難は、信頼できる情報によって支持されるものではないと思われます。むしろこの“情報”は、12年前に、アメリカのイラク攻撃を“正当化する”ために用いられたのと同じ、疑わしい、政治的に“仕組まれた”(fixed)種類のものと思われます。

我々はあの時、大量破壊兵器の信頼できる証拠をイラクに見出すことはできませんでした。今私たちは、ロシアの侵略の信頼できる証拠を見出すことはできません。12年前には、ゲアハルト・シュレーダー首相が、イラクの大量破壊兵器の証拠の薄弱さに気づき、イラク攻撃に参加することを拒否されました。私たちの見たところでは、あなたは、米務省とNATO高官たちによるロシアのウクライナ侵略と称する非難攻撃を、おそらく疑っておられるでしょう。

バラク・オバマ大統領は、8月29日、最近ウクライナで起こっていることを、「これまで何か月も行われてきたことの継続であって、…何か変わったわけではない」と公的に説明することによって、彼自身の上席外交官や企業メディアのレトリックを抑えようとした。



メルケル独首相

しかしオバマは、彼の行政府の政策立案者たちに対して、弱い支配力しかもっていません。この人たちは残念なことに、あまり歴史感覚というものがなく、戦争のことはあまり知らず、反ロシアの悪口を政策に代用しています。1年前、タカ派の国務省高官たちと、彼らのメディアの仲間が、オバマ氏をけしかけ危うくシリアに大攻撃を行うところでしたが、この時も、よく言っても疑わしい“情報”を根拠とするものでした。

私たちがマユツバと考える情報がますます目立つようになり、しかも明らかにこれに大きく頼っていることから、ウクライナ国境のかなたでエスカレートしている敵対行動の可能性が、過去数日にわたって著しく増大したと私たちは考えています。もっと重要なことは、あなたや他のヨーロッパの指導者たちが、来週、NATO サミットに持ちこまれる賢明な懐疑の程度に大きく依存して、この可能性は避けられ得ると私たちは考えます。

## 非真理の実験

おそらく、あなたのアドバイザーたちは、NATO の議長 **Anders Fogh Rasmussen** の信用性のさまざまな記録を、指摘しているものと思います。このラズムッセンのスピーチは、ずっとワシントンによって起草され続けているように、私たちには思えます。これが十分に分らかになったのは、アメリカの先導したイラク侵略の前日に、彼がデンマーク首相として議会に対し、「イラクは大量破壊兵をもっている。これは我々が信じているというだけでない。

知っているのだ」と演説したときでした。

写真は千の言葉に値しますが、また騙すこともできます。私たちは、あらゆる種類の衛星写真や他の写真、あらゆる種類の情報を、集め、分析し、報告する、かなりの経験を積んでいます。8月28日にNATOが発表した写真は、ロシアをウクライナ侵略で非難するためには、きわめて薄弱な根拠に基づいたものだ、とだけ言っておきます。悲しいことに、これはコリン・パウエルが2003年2月5日に国連で発表し、同じく何も証明しなかった写真に、酷似しています。

その同じ日に、私たちはブッシュ大統領に警告して、我々の同僚の分析専門家たちは、「情報を政治的に使われることにますます心を痛めている」と言い、きっぱりと「パウエルの発表は、とうてい戦争を正当化するようなものではない」と言いました。私たちはブッシュ氏に、「これらのアドバイザー・サークルを超えて議論を拡大すべきだ。彼らは、いかなる説得性ある理由もなしに、その意図しなかった結果が破局を招く可能性のある戦争を起こそうと、明らかに必死になっている」と忠告しました。

今日のイラクを考えてみてください。破局よりもっと悪いものです。

ウラジミール・プーチン大統領はこれまで、ウクライナの紛争についてかなり抑制された態度を取ってきましたが、ロシアもまた、“shock and awe”（ショックを与えて威圧する）ことができることを忘れてはなりません。この種のことがウクライナのために起こる可能性が少しでもあるなら、冷静な頭の指導者たちは、注意深くこれを考え抜かねばならないと、私たちは考えています。

NATO とアメリカの発表した写真が、ロシアの侵略の最も利用価値のある“証明”だというなら、私たちは、ロシアが必ず挑発とみなすような行動を、NATO サミットが承認するように、議論を固める努力が進行しているものと勘ぐらざるをえません。Caveat emptor（買い手への警告）という言葉、あなたはご存知だと思います。ラズムッセン氏が、あるいはジョン・ケリー国務長官でさえ、売りさばっているものには、大きく要注意だだけ付け加えておきます。

あなたはアドバイザーの方たちから、2004年の初めからウクライナの危機について、またウクライナがNATOの一員になるという可能性が、クレムリンにとっては絶対不可であることについて、情報を与えられていると思います。2008年2月1日の（ウィキリークスの発表した）モスクワの米大使館から国務長官コンドリーザ・ライスに当てられた電信によると、米大使ウィリアム・バーンズが外務大臣セルゲイ・ラヴロフに呼ばれ、ラヴロフはウク

ライナの NATO 加盟に強く反対であることを説明しました。

ラヴロフは、「この問題は潜在的にこの国を 2 つに分裂させる恐れがあり、暴力、あるいはある者たちが言うように、内戦にさえなる可能性があり、そうなればロシアは、介入するかどうかを決めなければならなくなる」と鋭く警告しました。バーンズは彼の電文に変わった題をつけました——「ニエットはニエットだ：ロシアの NATO 拡大へのレッドライン」。そしてこれを速達的重要事項としてワシントンに送りました。2 か月後、ブカレストのサミットで、NATO のリーダーたちは、「グルジアとウクライナは NATO に入るだろう」と公式宣言を出しました。

8 月 29 日、ウクライナ首相 Arseny Yatsenyuk は、彼のフェイスブック・ページを使って、彼の要請した国会の承認によって、NATO 加入への道が開かれたと主張しました。ヤツェニュークはもちろん、2 月 22 日のキエフのクーデタの後首相になった、ワシントンの秘蔵っ子です。

「ヤッツが適任だ」と、クーデタの数週前に、国務次官 Victoria Nuland は、ウクライナの米大使 Geoffrey Pyatt との盗聴された電話の会話で言いました。これはニューランド女史が「EU など糞くらえ (Fuck the EU)」と言った、あの同じ電話であることを思い出されたかもしれません。

## ロシアの“侵略”のタイミング

ほんの 2, 3 週前までキエフは、伝統的な知恵を用いて、ウクライナ軍は、南東ウクライナの反クーデタ連邦主義者との戦いで、掃討作戦によって有利に戦っていると宣伝していました。しかしその攻撃態勢の情報は、ほとんどもっぱら、キエフの公的な政府筋から出たものでした。ウクライナ南東部の現地からの報告はわずかしかなかった。しかし、ポロシェンコ・ウクライナ大統領の言葉を引用した、政府の説明の信用性に疑問を投げかけるものが一つありました。

8 月 18 日の“ウクライナ大統領の報道提供”によれば、ポロシェンコは、「この国の東部で力の行使に携わっているウクライナ軍部隊の再集合」を呼びかけ、…「今日我々は、軍隊の再編成をして、我々の領土と軍事攻勢の継続を護る必要がある」と言って、「我々は新しい環境で新しい軍事作戦を考えなければならない」と付け加えました。

もし「新しい環境」というのが、ウクライナ政府軍による進撃の成功を意味するとしたら、軍隊を「再集合」し「再編成」することがどうして必要なのでしょうか？ これとほぼ時を

同じくして、現地の情報源が、反クーデタ軍による政府軍攻撃の成功を伝える一連の報告を送り始めました。これらの情報源によると、大量の死傷者を出し、無気力と弱いリーダーシップが大きな原因で、退却し始めたのは政府軍の方でした。

10 日後、彼らが包囲されるか退却していたとき、そのために予め作られていた言い訳が、“ロシアの侵略”として出されることになっていました。これは、NATO によって怪しげな写真が発表され、ニューヨーク・タイムズの Michael Gordon のような記者たちが解き放たれて、“ロシア人が攻めてくる”という噂を広め始めた時と、正確に一致します。(マイケル・ゴードンは、イラクに対する戦争を推進した最もエゲツない宣伝屋の一人です。)

## 侵略はない——しかし他の多くのロシアの援助はある

南東部ウクライナの反クーデタ連邦主義者たちは、一つには政府軍の砲兵隊が大きな人口集中地域を砲撃した結果として、かなりの地方の援助を受けています。また私たちは、ロシアからの支援がおそらく国境を越えて流入し、そこには優れた野戦情報も含まれていると考えています。しかし、この支援に戦車や砲車が含まれているかどうかは、この時点では、どうも明らかとは言えません。その大きな理由は、連邦主義者たちが統制の点で遥かに優れ、政府軍の場所を突き止めるのに驚くほど成功しているからです。

しかし同時に、連邦主義者たちがそれを必要と場合には、ロシアの戦車がやってくるのは間違いないと考えています。

これこそ、この情勢が停戦の一致した協力を要求している理由です。ご存知のように、キエフはこれまでそれを引き延ばしてきました。この時点で何がなされるべきでしょうか？ 私たちの考えでは、ポロシェンコとヤツェニウクには、きっぱりと、NATO への加盟はカードにないこと、そして NATO はロシアとの代理戦争をする意図をもっていないこと、特にウクライナの烏合の衆的軍隊を助けるつもりはないことを、言ってやらなければなりません。NATO の他の加盟国にも、同じことを言ってやる必要があります。

推進グループ、Veteran Intelligence Professionals for Sanity を代表して——

William Binney, former Technical Director, World Geopolitical & Military Analysis, NSA;  
Co-founder, SIGINT Automation Research Center (ret.)

Daniel MacMichael, National Intelligence Council (ret.)

Ray McGovern, former US Army infantry/intelligence officer & CIA analyst (ret.)

Elizabeth Murray, Deputy National Intelligence Officer for Middle East (ret.)

Todd E. Pierce, MAJ, US Army Judge Advocate (ret.)

Coleen Rowley, Division Counsel & Special Agent, FBI (ret.)

Ann Wight, Col., US Army (ret.); Foreign Service Officer (resigned)